

**これからの「成人の日」記念行事の
あり方について（提言）**

平成16年9月

「成人の日」記念行事あり方検討委員会

目 次

はじめに	3
第1章 成人式の現状と課題	4
第2章 「成人の日」市民意識調査結果について	5
第3章 成人式の意義	7
第4章 「成人の日」記念行事で行われるべき内容について	9
第5章 開催会場について	11
第6章 これからの「成人の日」記念行事について	14

はじめに

「成人の日」記念行事あり方検討委員会(以下「委員会」という。)は、平成15年1月28日、横浜市教育委員会から、

- ・近年の少子高齢化、核家族化など、社会状況や青少年を取り巻く状況が変化してきていること
- ・新成人価値観の変化などから、記念式典が単なる同窓会となってしまうような状況があること
- ・成人式に際し、多数の車が環状2号線に集中し、市民生活に支障が生じていること
- ・2回開催により、特に午前午後への入れ替え時に入退場者が重なることで混乱が生じていること
- ・成人式に際しては、協賛金を募り、アトラクション等の経費に充ててきたが、昨今の経済状況の悪化から、協賛金の額が年々減少しており、これまでの内容による式典の開催が非常に困難になってきていること

などの社会情勢の変化をうけ

- 1 記念式典を行政が主催することの意義
- 2 望ましい式典の内容
- 3 集中開催と分散開催など開催方法や会場の検討

など成人式のあり方について検討を依頼されました。

委員会では、まず平成16年1月に横浜アリーナで開催された記念行事の式典や会場外の状況を視察するとともに、教育委員会が実施した「成人の日市民意識調査」の結果や、20歳前後の青年で構成される「成人の日」記念行事実行委員会メンバーから意見聴取した内容などに基つき慎重に検討を進め、このたび「『成人の日』記念行事のあり方」の基本的な考え方をとりまとめたところです。

成人の日記念行事は、次代を担う新成人が大人になったことへの責任を自覚し、併せて、大人世代から成人の日を迎える青少年の門出を祝福し、自立を支援するためのメッセージを託す場として重要な機会であるとの結論に至りました。

記念行事は過去十数年ほぼ同じ内容で実施されてきましたが、近年の社会情勢や新成人の意識の変化をきちんと受け止めながら、記念事業が本来持つ意義を十分に発揮できるよう開催されることを期待します。

第1章 成人式の現状と課題

1 成人式の経緯

「成人の日」は、昭和23年に公布された「国民の祝日に関する法律」（以下「祝日法」という。）で、「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」ことを目的として定められ、当初は1月15日を「成人の日」としていたが、平成12年に祝日法が改正され、1月の第2月曜日が「成人の日」となり、現在に至っている。

また、「成人の日」の行事については、成人の日に対する一般の関心が薄いことを背景に、昭和31年12月10日付け文部事務次官通達により、式典・記念行事等について「この日は、全市町村あげて新しく成人となった者を祝福する・・・にふさわしい行事を実施することが望ましい。」との考え方が示され、全国的に実施されることになった。

以来約半世紀にわたり、全国ほぼ全ての市町村で成人式が行われてきた。

2 横浜市における「成人の日」記念行事について

横浜市における「成人の日」記念行事について詳細な記録は残っていないが、昭和37年以前は、各区の実情に合わせて実施されていた。

昭和37年に横浜文化体育館が完成したことに伴い、38年からは全市の新成人を対象として文化体育館で、また、平成2年からは会場を横浜アリーナに移し、それぞれ複数回に分けて開催されてきた。

本市における記念式典の対象となる新成人は毎年約4万人であり、例年約6割の2万4千人程度が式典に出席しているが、それに対し横浜アリーナの定員が約1万3千人であるため、近年は、午前午後の2回開催で実施している。

記念事業の内容としては、主催者（市長）祝辞、来賓代表（市会議長）祝辞、来賓紹介、新成人の誓いの言葉などからなる式典と、コンサートなどのアトラクションが実施されてきたが、平成16年はアトラクションを行わず、式典の最後に横浜ゆかりの著名人からのビデオメッセージを上映する方式で実施された。

また、横浜アリーナに会場を変更した平成2年からは、記念行事に若者の意見を反映させるため、20歳前後の新成人を中心とした若者による実行委員会を組織し、実行委員会と本市との共催で実施されている。

3 横浜市の成人式の課題

(1) 全国的に荒れる成人式が話題になっているが、平成16年の成人式を視察した限りでは、1万人以上が出席する大きな規模の行事でありながら全体的には整然と行われていた。

一方で、式典中に携帯電話や私語・雑談に没頭している出席者が多く見受けられるなど、単なる同窓会となってしまっているような状況も見

受けられた。現代の若者の価値観の変化を踏まえながら、新成人の自覚を促す式典のあり方を検討する必要がある。

- (2) 毎回定員ギリギリの人数を収容することから、館内、周辺道路上とも非常な混雑が生じている。特に午前午後の入れ替え時には入退場者が重なるため、式典開始時にも着席できない出席者が多く見受けられた。
- (3) 成人式に際しては、従来から協賛金を募り、アトラクション等の経費に充ててきたが、昨今の経済状況の悪化から、協賛金の額が年々減少しており、実行委員会の意見を反映したイベントの開催が非常に困難になってきている。

第2章「成人の日」市民意識調査結果について

「成人の日」記念行事のあり方を検討するにあたり、平成16年3月に教育委員会が行った市民意識調査の結果は次のとおりとなっている。

1 調査概要

- (1) 調査対象 6,020人
市内在住の高校生(520人)、18歳~19歳(500人)、平成15年度の新成人(2,000人)、21歳~29歳(1,000人)、30歳~39歳、40歳~49歳、50歳~59歳、60歳~69歳(各500人ずつ)
- (2) 調査方法
調査票の郵送配布、郵送回収
- (3) 調査期間
平成16年3月
- (4) 回収数 2,419人
- (5) 回収率 40.2%

2 調査結果概要

(1) 成人式のイメージについて

「新成人が、大人になったことを自覚するための行事」が37.1%で最も多く、次いで「新成人を祝い励ますための行事」(20.2%)、「スーツや晴れ着を着て、新成人が一堂に会する行事」(15.9%)、「友達同士が再会する『同窓会』のような行事」(15.6%)、「新成人が集まって、騒いでいるだけの行事」(7.2%)などの順となっている。

世代別では、「新成人が、大人になったことを自覚するための行事」がほとんどの世代で最も多く、「友達同士が再会する『同窓会』のような行事」は未成年、新成人、20代で約2割から3割を占めて多くなっている。また、「スーツや晴れ着を着て、新成人が一堂に会する行事」は

特に 20 代以下の女性で 2 割台と多い。

(2) 成人式に参加したいか、参加したか

高校生・未成年では「参加したい」は 82.7%、「参加したくない」は 17.2%となっている。新成人では「参加した」は 74.6%、「参加しなかった」は 25.4%、20 代では、「参加した」は 69.9%、「参加しなかった」は 30.1%となっている。

また、30 代以上には、現状を踏まえ新成人が成人式に参加する必要があるかないかを質問したところ、「必要がない」(55.2%)が過半数を占め、「必要がある」(44.1%)を上回った。

(3) 参加したい・参加した理由、参加する必要があるか

高校生・未成年では「一生に一度のことなので、とりあえず参加したい」(39.5%)が最も多く、次いで「友人に会いたいから」(25.0%)、「新成人の節目として参加するのは当然であるから」(23.0%)などが多くなっている。

新成人では「一生に一度のことなので、とりあえず参加した」(48.3%)が最も多く、次いで「新成人の節目として参加するのは当然であるから」(23.0%)、「友人に会いたかったから」(18.9%)などの順となっている。20 代では「一生に一度のことなので、とりあえず参加した」(43.6%)、「新成人の節目として参加するのは当然であるから」(28.2%)、「友人に会いたかったから」(17.7%)などの順となっている。

新成人が参加する必要があると答えた 30 代以上では、「新成人の節目として参加するのは当然であるから」(57.1%)と「一生に一度のことなので、行ったほうがよいから」(30.8%)の 2 項目で大半を占め、他の回答はほとんどみられない。

(4) 参加しない理由、参加する必要がある理由

高校生・未成年では「内容に興味がなから」が 36.8%で最も多く、次いで「特に、成人式を節目だとは感じないから」(17.9%)、「なんとなく、参加したくないから」(15.4%)などの順となっている。

新成人では「仕事や勉強などで時間がなかったから」(18.8%)、「内容に興味がなかったから」(15.4%)、「会いたいと思う友達がいなかったから」(11.1%)、などの順となっている。20 代では「仕事や勉強などで時間がなかったから」(28.2%)、「内容に興味がなかったから」(15.4%)、「会いたいと思う友達がいなかったから」(12.8%)、などの順となっている。

「参加する必要がある」と答えた 30 代以上では「成人としての自覚がなく、ただ騒ぐだけなら意味がないから」(59.0%)が突出して最も多く、次いで「特に、成人式を節目だとは感じないから」(14.4%)、「家族や友人と一緒に祝う方がよいから」(13.7%)などの順となっている。

(5) 実施の是非

成人式を今後も実施すべきだと思うかについては、「実施すべき」は、高校生、未成年、新成人でいずれも6割台後半から8割近くを占めて多くなっている。一方、30代以上では、「実施すべき」が44.3%、「しなくてもよい」が46.7%とほぼ拮抗している。

(6) 開催方法

「横浜アリーナで開催」が33.2%で最も多く、次いで「横浜国際総合競技場等で、全市1回で開催」(20.1%)、「いくつかの方面に分けて、数力所で開催」(19.3%)、「各区ごとに別々で開催」(16.4%)、「中学校の学区ごとに別々で開催」(6.5%)の順となっている。

「横浜アリーナで開催」は20台以下の若い世代の支持があり、30代以上では「各区ごとに別々で開催」が約30%と最も多くなっている。

(7) 成人式に盛り込むべき内容

「市長挨拶」と「新成人による誓いの言葉」の2項目については、全世代を通じほぼ8割の人が必要としていた。

一方、「必要ない」は「来賓(議員等)紹介」(64.3%)と「市会議長挨拶」(55.7%)の2項目が過半数を超えている。

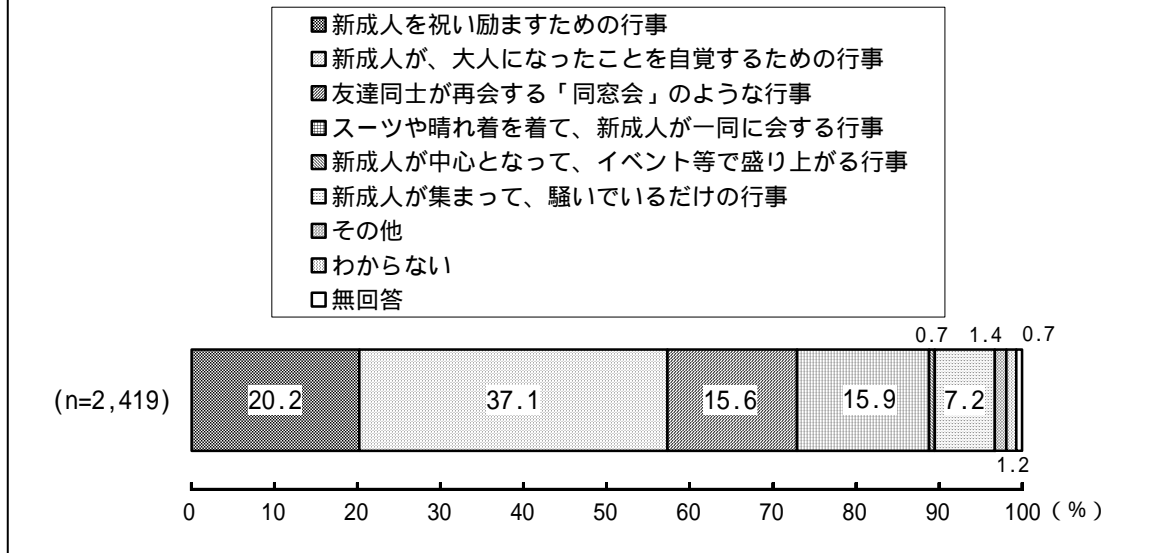
また、このほか必要であるという回答が多いものとしては「選挙や年金制度などの説明」(64.1%)と「新成人自らが企画するイベント」(62.3%)でそれぞれ6割を超えている。

第3章 成人式の意義

先に記述したとおり、国民の祝日に関する法律には「おとなになったことを自覚し、みずから生き抜こうとする青年を祝いはげます」と規定されている。

市民意識調査の結果でも、成人式については、「新成人が大人になったことを自覚するための行事」という回答が37.1%で、「新成人を励ますための行事」という回答の20.2%の約2倍となっている。

「成人式」のイメージについて、あなたの考えに最も近いものはどれですか。
次のうちから一つだけ選んで番号に をつけてください。



また、「成人式は今後も実施すべきだと思いますか。」という問いに対しては、未成年や新成人では70%が「開催すべき」と答えているのに対し、30代以上では、「開催しなくてもよい」が46.7%と過半数近くなるなど特に大人の間で成人式の現状に対する批判的な意見が多くなっている。意識調査結果では、近年荒れる成人式が報道されていることを受け、「成人としての自覚がなく、ただ騒ぐだけなら意味がない」ことがその理由となっているが、これらの世代は成人式を終えた世代であるため、毎年成人式後に報道される「荒れる成人式」などにより必要性を低く考えている面があることも否定できない。

これらの市民意識調査の結果を踏まえ、委員会でも成人式の必要性について議論を重ねたが、通過儀礼的なものが無くなりつつある現代にあって、20歳という節目の年に、新たに大人の社会の一員となる新成人自らが主体的に大人となったことの責任などを自覚するためのきっかけは必要であるとの結論に達した。

70%の若者が成人式を開催して欲しいという意見をもっていることの重みをきちんと受け止め、大人社会が若者の考えを見守っていく機会と位置づけることが必要である。

しかし、このことは若者の甘えを容認することではない。記念式典は大人社会が自分たちの一員として受け入れてくれる場であり、大人になることにより自らの行動に責任が伴うことをきちんと認識することが前提となる。

この意味から、円滑な式典の進行を妨げるような行為に対しては、自らの行動の重みや責任を理解させるためにも毅然とした対応をとることが必要である。

第4章 「成人の日」記念行事で行われるべき内容について

1 式典に必要な要素

「成人の日」記念行事が、「未成年が成人となる節目を自覚する」ことや「大人から新成人に向けて、大人となったことを自覚することを目的としたメッセージを発信する」ことを目的として開催されることを考えると、式典には、次の二つの要素が必要であると考えられる。

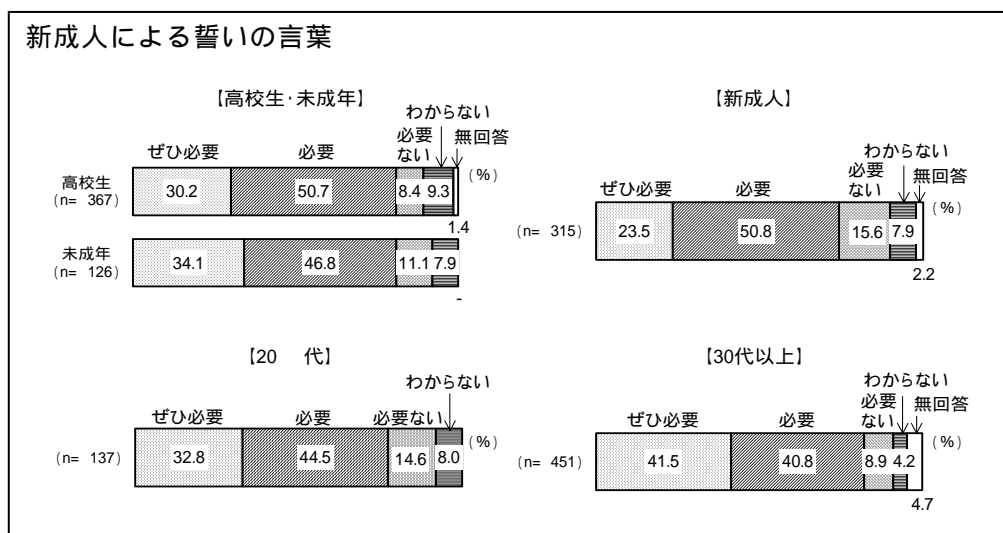
一つは、「新成人から社会に対するメッセージ」で、もう一つは「大人から新成人へのメッセージ」である。

(1) 新成人からのメッセージ

「新成人からのメッセージ」は、新成人自らが成人になったことを自覚し、社会に出るにあたっての何らかの意思表示や表現を行うことによって発信されるものである。

具体的には、「新成人による誓いの言葉」や「新成人自らが企画するイベント」などが考えられるが、これらについては、新成人になった節目において、将来への決意や、権利や責任に関する自覚を表現するような内容が望ましく、新成人が社会に向けて自発的にメッセージを発信することが期待される。

市民意識調査においても、これらの項目はいずれの世代においても「必要である」が過半数を超えている。



(2) 大人から新成人に向けたメッセージ

もう一つの要素である「大人から新成人に向けたメッセージ」については、大人が新成人を祝い励ますために、人生の先輩として新成人に向けたメッセージを発信し、それを受けて新成人自らが成人になったことを自覚するためのものである。

具体的には「市長からのメッセージ」、「講演会・トークショー」、「著

名人からのビデオメッセージ」などが考えられるが、これらについては、より新成人が身近に感じ共感できる著名人からのメッセージや、世代が離れていても、これからの人生の指針になるようなアドバイスであることが望まれる。

従って、これらを行う際には、人選や内容について吟味し、新成人に対し、訴える力があるメッセンジャーを選択し、メッセージ性が高いものを実施する必要がある。

2 検討すべき項目について

(1) アトラクションについて

歌手等によるコンサート等のアトラクションについては、市民意識調査では、高校生・未成年・新成人において「必要である」とした回答が50%を超えているが、20代では38%になり、30代以上は約30%になっている。逆に、30代以上では「必要ない」が42.6%となっている。

アトラクションは、成人式の本来の目的からすると、必須のものではないが、新成人の式典への参加と新成人の自覚を促すための「きっかけ」になるとすれば、必ずしも不要であると考えする必要はない。

本市においては、平成15年までは歌手によるコンサートを実施していたが、よりメッセージ性の高い式典にするため、平成16年はこれを実施せず、著名人によるビデオメッセージを実施した。

どのような企画を実施する場合でも、成人式本来の意義である成人としての自覚を促すメッセージの発信という視点で企画を考えることが必要である。

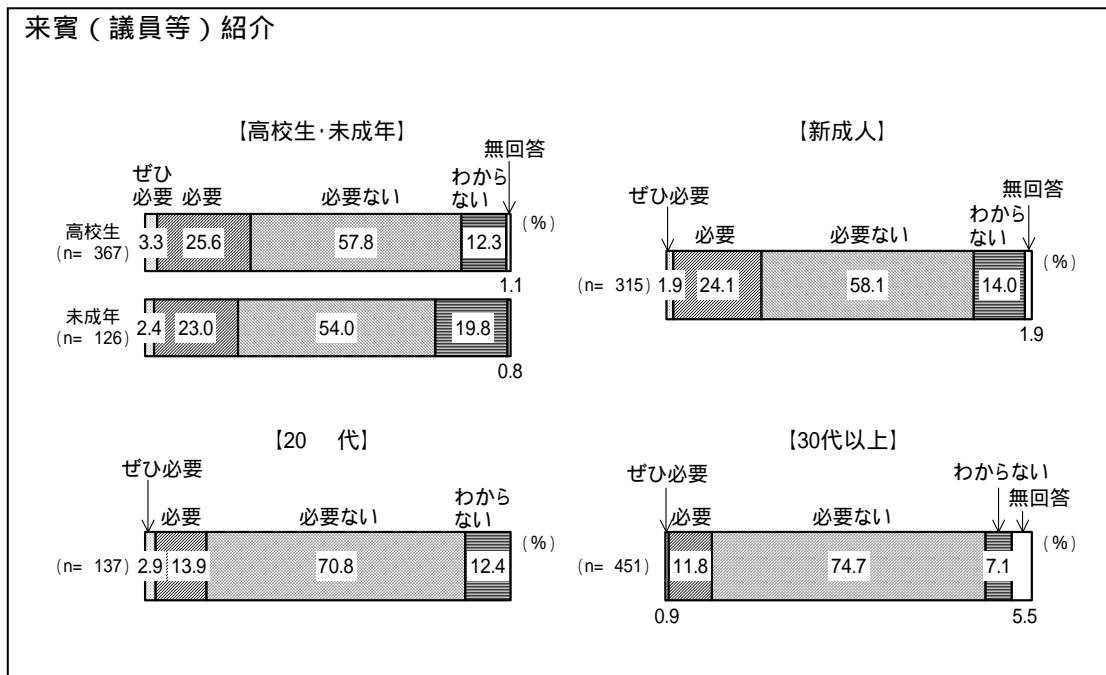
また、そのメッセージがより新成人に伝わるよう、人選やアトラクションの内容については、新成人の意向を把握しながら、出演者による新成人へのメッセージを盛り込むことや新成人の出演によって、同世代や社会へアピールするものであることが必要であろう。

(2) 来賓の招待・紹介について

現状の来賓等の紹介については、35～40分間という式典時間の中の10分間強で実施している。式典全体の約3分の1を紹介の時間に費やすことは、式典全体を冗長にし、内容を乏しくする一因となっている。式典は、本来の主役である新成人を祝福するために開催されるものであるため、来賓等は一括して紹介するなどの改善を図ることが必要である。

なお、市民意識調査では、「必要ない」という回答が全ての世代で過半数を超えている。

式典全体の運営を考えた場合、時間についてはこれ以上延長することは困難である。限られた時間の中で、新成人に必ず伝えなければならないこと、そうではないものを精選し、簡素で有意義な成人式を目指すべきである。



第5章 開催会場について

開催会場については、市民意識調査では「横浜アリーナで開催」が全体の約33%でトップ、続いて「横浜国際総合競技場等で全市1回で開催」が約20%、「各区ごとに別々で開催」が約16%、「中学校の学区ごとに別々で開催」が約6%であった。

記念行事を最も効果的に行うためには、どのような会場でどのように運営していくべきかについて、集中開催とした場合と分散開催とした場合のそれぞれの会場別に課題などの検討を行った。

1 集中開催方式

著名な会場で集中開催することのメリットとしては、多くの新成人が一堂に会し成人式を迎えることにより、横浜市民意識を実感できることにある。

また、市長のメッセージなどをライブで聞くことは、分散された会場でビデオや代読で聞くことに比較して、大人としての自覚を訴える力にはるかに強い。

集中開催が可能な会場として、市民意識調査にあった、横浜アリーナと総合競技場のほか、パシフィコ横浜も含めた3施設での実施可能性について検討を行った。

会場別のメリット・デメリットは次のとおりである。

(1) 横浜アリーナ

横浜アリーナは市内最大の屋内収容施設であり、約1万4千人を着席の状態に収容することができ、式典を行う上では市内で最適な施設であると言える。また、参加者にとっては成人式のイメージとして定着しており、「成人の日」に横浜アリーナに行くことは一種のステータスになっている。

しかしながら、1回では新成人を収容できないため、近年では2回に分けて実施している。

また、周囲に滞留スペースがないことから、参加者が路上にあふれ、周辺道路の混雑の問題が発生しており、そのことについて関係機関から改善の指導を受けている。

(2) 横浜国際総合競技場

横浜国際総合競技場は、約7万人を収容する市内最大の施設であり、式典を1回で実施できることが最大のメリットであると考えられる。また、施設周辺のスペースは十分で、参加者が滞留する場所は確保できる。

一方、少々の雨を防ぐ屋根がついているものの、強い雨や雪を防ぐことは難しく、また、屋外施設であるため寒さを防ぐことができない。

さらに、かなり巨大な施設であって、駅からの動線が長いことから、警備・誘導経費の大幅増が見込まれる。

(3) パシフィコ横浜

パシフィコ横浜は、約5千人収容の国立大ホールと、最大で約2万²ある展示ホール等からなるコンベンション施設である。周辺に滞留スペースが十分あり、動線も比較的シンプルであることから、立地条件がよいことがメリットとして挙げられる。

国立大ホールだけで実施した場合は5回程度にわけ開催することが必要となるため、国立大ホールにおいて式典を実施し、展示ホールでは、式典のライブ中継や出展ブース・交流スペースとして、両施設を併用することが想定される。

この場合、前日からの設営が必要となり、国立大ホールと展示ホール(1万²)を併用し2日間借用した場合、横浜アリーナの3倍強の会場費を要する。

また、式典を2回実施とした場合、式典への参加者は一万人が限度となるため、両施設における出席者の調整が課題となる。

2 分散開催方式

分散開催方式のメリットとしては、地域の「顔の見える関係」の中で新成人を祝う式典を実施できるということがあげられる。新成人に対し、社

会や地域の一員であるという自覚を促すことができるとともに、新成人も参加した「手作り」の式典が開催できるという意味においては、本来の「成人の日」記念行事の目的を最も達成できる、理想的な形態であると考えられる。

分散開催の方法として、区で実施する場合と、中学校区で実施する場合の課題等について検討を行った。

それぞれの開催方法のメリット・デメリットは次のとおりである。

(1) 区ごとの開催

実施主体は各区が中心となることが想定される。参加者にとって、近隣の友人と気軽に参加しやすい実施形態である。区の地域特性に合わせた式典が期待され、地域の協力などによる手作り感も醸成される。

しかし、行政区の人口は最小の西区でも8万人以上で、最大の港北区では30万人と地方の県庁所在地並みの人口があるため、「顔の見える関係」の中での開催というには、規模が大きすぎるという面もある。

さらに、十分に参加者を収容できる会場が、各区全てにないことが問題である。具体的には資料3の表にあるように、公会堂でも約500～600人程度であり、高校の体育館等を借用して2～3回の開催が必要である。

(2) 中学校区ごとの開催

各中学校区ごとに、地域の連合町内会等が主催して、中学校の体育館等で実施する形態である。参加者にとっては、地元の中学校において、地域の方の手作りの式典に参加できるという中で、地域の連帯感の醸成なども期待できる。

しかしながら、145箇所にわたる実施体制を確立する必要があり、トラブル等の増加も危惧される。また、その地域への転入者や私立中学校出身者が参加することが難しいという問題もある。

また、区ごとの開催や中学校区ごとの開催の場合、会場が住宅地に近接するケースが多くなるため、交通渋滞や騒音などの近隣への影響も大幅に増えることが危惧される。

エクセル資料

【資料1】集中開催シュミレーション

【資料2】開催規模別比較表

【資料3】各区開催会場検討資料

第6章 これからの「成人の日」記念行事について

1 成人式の意義

成人式は新成人が大人になったことを自覚するための行事であり、記念式典の主演は新成人である。

市民意識調査の結果にもあるように、多くの市民は、成人式について「新成人が大人になったことを自覚するため」に開催されるものであると受け止めている。

通過儀礼的なものがなくなりつつある現代にあって、20歳という節目の時期に、成人となることの社会的責任を自覚し、大人として行動していくためのきっかけの場として、成人式は重要な役割りを担うものである。

この趣旨を踏まえ、記念式典は、新成人と大人社会相互のメッセージの交換を中心に、来賓紹介の方法について見直すなど、真に必要な内容を吟味し、簡素・効率的に進められるべきものである。

成人式は新成人自らが企画に参画し、併せて青少年育成団体との協働により進められることが必要である。

成人式は、これまでも20歳前後の公募委員により構成される「記念行事実行委員会」と市との共催で開催されてきたが、記念行事を若者の意見を反映したものとするため、新成人自らが企画に参画するこの仕組みは継続し、さらに経験者などへ輪を広げていくなど、より充実させていくことが必要である。

併せて、これまで地域などにおいて成長を見守ってくれた青少年指導員などの各種団体などと協働を進めていくことが必要である。

成人式は、新成人の自覚を促すため大人からのメッセージを託す場としても重要である。

新成人が、大人になったことを自覚するためには、大人社会の側からも、新たに成人の仲間入りをした新成人を祝い励まし、成人となることにより生じる、責任や義務などの自覚を促すためのメッセージを託すことが必要である。

この観点から、式典に併せて実施されるアトラクション等についても、平成15年度に実施されたビデオレターによる新成人へのメッセージのように、新成人が成人式の本来の意味を自覚できるような企画とするため、内容、人選等を吟味していく必要がある。

2 望ましい式典の内容や運営

新成人に、社会参加を促すための仕掛けが必要である。

近年の若者の特性として、政治や年金問題への無関心、規範意識の低下などが指摘されている。

成人式は毎年2万4000人が参加する一大イベントであり、このような機会を活用し、社会で活躍する先輩との交流や年金啓発イベントの実施など、社会人としての自覚を促すための仕掛けが必要である。

大人としての責任を自覚させるため、毅然たる対応が必要である。

近年、全国各地で荒れる成人式の様子が報道されているが、幸いにして本市においては、目立った混乱は起きていない。

しかし、本市の式典の中でも私語やメールに興じている状況が目立ち、会場内には配布されたリーフレットが捨てられ、散乱するなどマナーの低下は目を覆うばかりである。

大人になることにより自由や権利が与えられるが、自らの行動には責任が伴うことをきちんと自覚させることが必要である。

そのために、式典中の私語禁止、携帯禁止などの式典参加のルールを徹底することはもとより、式典の進行を阻害するような行為があった場合は、毅然とした態度で対応すべきである。

出席できない新成人に対するメッセージの伝達が必要である。

市民意識調査によると、新成人の2割、20代の3割が仕事や学業で成人式に出席できなかったと答えている。

インターネットやCATVによる式典中継など、式典に出席できない新成人にもメッセージを伝えられるような方策の検討が必要である。

3 引き続き検討されるべき課題：開催方法

地域の中で顔が見える式典が理想である。

新成人が大人になったことを自覚し、大人社会の側からも、新成人を祝い励ますとともに大人になった自覚を促すという成人式の趣旨をふまえると、今まで育ててくれ、これからも社会人として生活していく地域の中で祝うことが理想的である。

分散会場で行うとしても、本市の行政区は、8万～30万の人口を擁し、地域で祝うという理念を実現することは不可能である。

将来的には、中学校区程度での開催が大人の仲間入りをする青少年を地域でお祝いするという意味で、本来の成人式の趣旨に最も近いものと考えられる。

ただし145もの会場の運営を誰が、どのように行うか、式典の内容をどうするのかなど、実現に当たっては解決しなければならない問題も多い。

集中開催方式をとる場合は、新たな開催方法の検討も必要である。

当面は集中開催方式で実施することが現実的であるが、検討した3会場はそれぞれ課題を抱えている。

横浜アリーナは、これまで開催されてきた実績もあり成人式のシンボルとなっているが、警備上の課題を抱えている。

横浜国際総合競技場は、1回開催で新成人全員を対象に式典をおこなえることが魅力であるが、寒冷・荒天時の対策が困難であり、成人式の会場としては課題が多い。

パシフィコ横浜は、経費の大幅な増が必要となるが、国立大ホールと展示場という2つの屋内施設があるため、式典とイベントスペースの分離による新たな実施方法や経費の節減などの検討が必要となる。

このようにそれぞれが課題を抱えているなかでは、横浜アリーナで実施することが最も現実的であるが、記念式典をより意義あるものとするために、引き続き新たな開催方法を検討していくことが必要である。